

P21

貼付式表面麻酔剤の口腔内への応用

假谷直之 はなふさ歯科医院(岡山市)

【目的】口腔内に麻酔を行う際の注射針刺入時の痛みは、患者にとって歯科受診の際のストレスとなっていることが多い。今回、私は、この注射針刺入を誰でもが、無痛で行える簡単な方法はないものかと考え、この今回、リドカインテープ剤「ペンレステープ」の麻酔注射前の局所貼付を行い、痛みのない麻酔注射を試みた。

【方法】協力を要請し承諾の得られた成人の健康なボランティア患者20名に対して麻酔針刺入部位粘膜にあらかじめ6種類の何らかの前処置を行った後、通法通りに麻酔針をゆっくり刺入し痛みを感じた時点で手を挙げてもらい即座に刺入をやめ何ミリ刺入したかメジャーで刺入深さを計測した。

【結果】・ペンレスは、30G、31G注射針の刺入深度においてポジティブコントロール(以下PC.)、ネガティブコントロール(以下NC.)に対して有意に深く注射針を刺入できた。

・ジンジカインゲルも、30G、31G注射針の刺入深度においてPC., NC.に対して有意に深く注射針を刺入できた。

・ペンレスとジンジカインゲルの30G、31G注射針の無痛刺入深度を比較すると、有意にペンレスの方が無痛刺入深度が深かった。

【考察】今回、実験を行った60%リドカインテープは、歯科用として安定した効果を発揮して有用と思われた。これは、主に薬剤の種類、濃度の違い、剤形の影響と考えられる。成人、小児含めた一般的な患者の歯科治療における快適性を考えると、この60%リドカインテープ剤の歯科での積極的な使用が望ましい。

【参考文献】

歯肉頬移行部における60%リドカインテープの表面麻酔効果. 小笠原 正他
松本歯科大学障害者歯科学講座.
日歯麻誌 30(1), 36-41 2002.

P22

上顎永久中切歯の褐色斑にホワイトニングを行った症例

○廣田 和子、長田 恵美*、平野 洋子**
(廣田歯科医院、*鹿大・院医歯・予防歯、**医療法人社団秀和会・小倉南歯科医院)

【緒言】

上顎永久中切歯に何らかの理由で、萌出時すでに褐色斑を有する症例を経験した。2症例とも思春期の女兒で、審美的な問題を抱えていた。実質欠損は認められなかったため歯質削合はせずに、保護者及び本人の同意を得て、ホームホワイトニングを試み経過観察を行った。

【方法】

2症例とも上顎の模型上に、口腔内写真を基に褐色斑を呈する部位を写し、EVAシートを用いて、スペースを設けたカスタムトレーを作製し使用した。

【症例】

症例1: 女兒 開始年齢 11歳 10ヶ月
薬剤はOpalescence(ULTRADENT社)を用い、就寝中約5週間使用した。褐色斑は白斑に変化し、2年後の定期診査時にも顕著な後戻りは認められなかった。

症例2: 女性 開始年齢 17歳 11ヶ月
薬剤はNIT ホワイト・エクセル(米国ディスカス・デンタル社)を用い、夕食後就寝前の2~3時間、17日間使用した。褐色斑は白斑に変化した。3年後、後戻りが認められたので、再度同じ方法にて2週間ホワイトニングを行った。

【考察】

歯列全体を対象としたホワイトニング症例は多いが、今回のような、歯の一部に褐色斑を有する症例に対する報告は、我々の知りうる限りではない。審美的問題解決法としては、レジン充填処置が選択されることが多いが、歯質削合せずにできる今回の方法は、小児歯科領域においても有用であると考えられる。ただ、後戻りがあるので、長期の予後観察及び歯質に対する影響への注意が必要と思われる。